

約四百年前、鳥羽城主、九鬼嘉隆の子孫たちが家督相続をめぐる騒動を起こします。その結果、幕府の命により、京都の綾部と兵庫の三田へ移封となりました。三田へは、嘉隆の孫である久隆が3万6千石で移りました。多くの市

町が外国の市町と姉妹都市提携を結び、国内の市町と友好都市提携を結んでいます。しかし領主が同じ九鬼家であったという具体的な縁によるものは少ないのではないのでしょうか。今回、両市の間で友好都市提携を結ぶことができたのは、これまでガイドボランティア、鳥羽郷土史会、そして九鬼水軍太鼓などのみなさんが、三田市のみなさんと交流を続けてきたことが大きな力となりました。また、竹内市長をはじめとする三田市の多くのかたに熱心に働きかけをしていただきました。鳥羽市議会でも、友好提携を進める決議が行われました。

7月1日、三田市において、「海と山の九鬼氏・交流フォーラム」が開催され、その場で「友好都市宣言」調印式が行われました。鳥羽市からは総勢31名の各市民グループの代表が出席してくれました。勇壮な三田太鼓によるオープニングでスタートとするこの調印式を約300名の鳥羽市・三田市の市民が見守りました。提携が成った今後、両市の歴史文化、スポーツ、教育、観光、そして防災など各分野にわたって交流を行い、友好を深めていくことになるでしょう。



「袖触れ合うも他生の縁」という言葉があります。袖に触れ合うようなちよつとしたことでも、前世からの深い因縁によって起こるものであるような意味です。

去る7月1日、鳥羽市と兵庫県の三田市との間で、友好都市提携が結ばれました。鳥羽市と三田市の間の縁は、袖触れ合う程度のものではありません。古くて、大きな縁があります。

町が外国の市町と姉妹都市提携を結び、国内の市町と友好都市提携を結んでいます。しかし領主が同じ九鬼家であったという具体的な縁によるものは少ないのではないのでしょうか。

今回、両市の間で友好都市提携を結ぶことができたのは、これまでガイドボランティア、鳥羽郷土史会、そして九鬼水軍太鼓などのみなさんが、三田市のみなさんと交流を続けてきたことが大きな力となりました。また、竹内市長をはじめとする三田市の多くのかたに熱心に働きかけをしていただきました。鳥羽市議会でも、友好提携を進める決議が行われました。

7月1日、三田市において、

「海と山の九鬼氏・交流フォーラム」が開催され、その場で「友好都市宣言」調印式が行われました。鳥羽市からは総勢31名の各市民グループの代表が出席してくれました。勇壮な三田太鼓によるオープニングでスタートとするこの調印式を約300名の鳥羽市・三田市の市民が見守りました。提携が成った今後、両市の歴史文化、スポーツ、教育、観光、そして防災など各分野にわたって交流を行い、友好を深めていくことになるでしょう。

三田市を訪れて感じたことは、大変、元気のある町であるということでした。市制施行当時、鳥羽も三田も同じように人口は3万人余でした。ところが今や、三田市は人口11万5千人。神戸市のベッドタウンとして成長を続け、人口は増え続けているそうです。

三田市に負けないよう、わたしたちもがんばっていかねばと思います。両市の友好の発展を心から願っています。

木田市長の



vol.69

鳥羽市・三田市の友好都市提携

人権文化の花を咲かせよう

Vol.109

人権に対する「点検と気付き」を

わたしが同和教育に関わりを持つようになったのは、教員になった30数年前のことです。ただ、教職を目指して努力していた学生時代には、大学の教職課程の中にも「部落差別の問題」や「人権・同和教育」に関わっての講義、さらには教職免許取得のための必修教科は全くありませんでした。従って、自らの意識の中にも部落差別の問題や解決に向けて深く考えることもなかったのです。しかし、教職に就いてからの研修や経験の積み重ねの中で、部落差別の問題解決に向けての「意識のなさ」こそが、自らの差別性であることにも気付かされたこ

とは事実です。学校には、様々な背景を持つ子どもたちが在籍しています。戦後の混乱・復興期の中で教壇に立った先達は「今日も机にあの子がいない」という長期欠席児童、不就学児童の状況に直面し、そこにある部落差別の現実には驚き、胸を痛め、怒りを持って教育活動を始めたと言います。部落差別をなくす同和教育の実践は、近年におけるさまざまな人権問題の解決に向けた取り組みへと繋がっています。各学校で定着してきた男女混合名簿や行政が推進する男女共同参画社会の実現に向けた取り組みへと広がっています。

人権問題は、すべての人の日常的な問題であり、特定の人の特定の問題ではありません。わたしたちは日常生活の中で、知らず知らずのうちに誰かの人権を侵害してしまっていることがあります。人権は、侵害される側には重大で深刻な問題であるという認識が必要であると言われています。日々の日常生活の中で人権に対する「点検と気付き」が人権文化を創造するための第一歩ではないでしょうか。